

母校に想う

昭和35年度卒 矢野光正

大きな二本の銀杏の木。母校
八栄小学校を想うとき先ず脳裏
に浮かびます。

校名は旧東葛飾郡八栄村（二
和・三咲・金杉・高根・米が崎・
七熊・東夏見・西夏見）に由来す
るものと聞き及んでおります。

本校の前身は、薬王寺の寺子
屋であったらしく、私の曾祖父
定吉が、我が家で最も古い卒業

生です。その様なわけで、去年卒
業した末娘までを数えますと、
五代に亘り二十二人がお世話い
ただいた勘定になり、八栄小学
校を語らずして我が家の歴史は
ありません。

いつの時代に植えられたのは、
シンボルのあの大木は、秋の大
運動会の万国旗を飾るポールの
役目もしていたように記憶して
います。

昭和三十年四月の入学式当日
は、「おしるこ」の振る舞いに舌
鼓を打ちました。当時は児童が

急増したためか、同じ教室を一年生と二年生が、午前と午後に分かれて使う二部制の授業でした。校舎は、中も外も全体に黒っぽく、床高は大人の腰ほども高い平屋で当時にしても極めて古く、床が今にも抜けそうな為、廊下を走るとひどく叱られました。四年生のときの教室は、面白い造りで、幾つかの教室（三室か四室）の間仕切りを外すと、講堂に早変わりします。

一年の内、二大イベントの一つである学芸会が、この講堂で

幕を開けます。家族は座蒲団と弁当を持参で押しかけます。私は、一年生で山羊、三年生のときは狸、五年生でやっとチヨイ役の人間でした。

一方、運動会では、なぜか我々子供たちはふくらはぎにヨードチンキを塗り、足がチヨイ速くなる工夫をして徒競走に備えました。（あれは何だったのでしょうか？）

校舎の裏手には、多分市内でも珍しい飼育小屋を造っていただき、鶏・兎・鶯鳥などを飼い、

また、皆で田圃を作って稲を栽培したり、あの頃の思い出は私の宝です。

あの講堂で、マンボ先生（私の記憶が正しければ校歌を作曲された田中先生のニックネーム）が伴奏して下さるオルガンに合わせ、昭和三十六年の春『仰げば尊し』を謳った日が、懐かしく、優しく思い出されます。

船橋市立八栄小学校 P・T・A
創立百周年記念事業実行委員会
記念誌編集委員会編集

「創立百周年記念『やさかえ』」

（平成四年三月七日発行）より

